

[科目区分]：教育実践高度化専攻 リーダーシップ開発コース・教育実践開発コース

[授業科目名]：集団づくりの道德論的アプローチ

[登録学生数]：6名

令和2年度「授業評価・授業研究報告」

教育学専攻科 山内 孔

1 授業概要

道德教育は「特別の教科道德」（以下道德という。）を要とし、学校教育活動全体を通して行うことで、個々の人格形成だけでなく、集団づくりにも寄与している。また、話し合い活動等を通じて道德を充実するためにも、他者の意見に耳を傾け、自分の考えを表明し合う集団の育成が必要である。

そこで本授業では、まず、理想的な集団づくりのために必要な道德論的アプローチの理論について検討した。問題解決的な学習・話し合い活動等、道德に限らず各教科・領域に共通する思考過程や集団決定の特徴を紹介し、道德と他教科との横断的な学習について、事例検討を深め、集団づくりに焦点化した道德の指導を構想した。さらに、集団づくりへの道德論的アプローチについて、実際に公立中学校生徒を対象に、大学教員が授業実践を行い、受講者がその授業を連続して参観し、集団づくりの実際を学ぶことを目指した。

2 到達目標

集団づくりに関する道德理論を具体的な事例に即して説明することができる。

その理論的背景に基づいて、道德や特別活動の指導、学校全体のカリキュラム作成等、実践的な取組ができる。

3 授業内容（7時間構成）

1・2時間目

- ・ 集団づくりの基本的な考え方、実践方法について具体的な事例をもとにした講義
- ・ 道德の授業作りの基本的な考え方について外部講師による講義

3～6時間目

- ・ 大学教員が松山市立東中学校へ出向き授業を実践、受講者はその実践を直接参観（以下松山市立東中学校1年3組を対象に実施した授業の概要）

第1回授業 R2 11月24日（火）

グループワークを通して、自分の良さや友達の良さに目を向けさせ、互いに認め合うことの大切さについて考えさせる。（グルーピング、アイスブレイク、グループワーク）

第2回授業 R2 12月22日（火）

少数意見を尊重したコンセンサス形成の過程を経験させ、効果的な話し合いの技能を身に付けるとともに、互いを尊重することの大切さについて考えさせる。（コンセンサストレーニング）

第3回授業 R3 1月14日（木）

話し合いのスキルを向上させるとともに、具体物を用いて、自他の個性を尊重することの大切さについて考えさせる。（教材：わたしのジャガイモ）

第4回授業 R3 2月12日（金）

自他の個性を理解し尊重することで、よりよい人間関係を形成しようとする態度を育てるとともに自分の可能性を信じ、夢の実現に向けて希望をもって努力し、学校生活を充実させようとする心情を育てる。（教材：1－3 オークション）

7時間目

- ・ 振り返り（アンケート調査の実施）

4 指導の工夫

松山市立東中学校での授業実践に参加した受講者には事前に指導案や使用するワークシートを配付し、授業のねらいや授業展開について共有した。さらに、大学教員が当該授業中に発言する一言一句を計画したメモ（以下指導言という。）も配布し、授業作りの基本を示範するとともに、無駄やダブりのない的確な指示の在り方等についても考えさせた。同時に、学生には詳細な授業記録を取ることを要求しており、大学教員が指導言に沿ってどのように発言するか、また予定したプラン通り、授業が展開するかについても着目させた。

(指導案 一部)

第1学年3組 学級活動学習指導案 (私のジャガイモ)			
		指導者 井手駿佑・山内 礼	
1	日時	令和3年1月14日 第6校時(14:30~15:20)	
2	場所	松山市教育研修センター 大講義室	
3	ねらい	これまでに学習した内容を発揮させ、話し合いのスキルを向上させるとともに、具体物を用いて、個性を尊重することの大切さについて考えさせる。	
4	本時の指導		
学習過程	時間	主な学習活動	指導上の工夫
1 導入	1	・前時の学習を想起する。	・コンセンサスの意義、方法を確認させる。
2 グループでの意見の共有	9	・ブレインストーミングを通して、意見を出し合うことの大切さや効果を感じる。(前時の残り) <グループビンゴ>	・追加の指示が無いように、ブレインストーミングの指示を的確に行う。 ・3分の活動時間とする。(課題3) ・出し合った意見を共有することにより多様な考え方に触れさせる。 ・様々な意見を称揚する。 ・発表者は自分の声で全員に伝えるよう指示する。
3 個性について考える	5	・ジャガイモに出会う。 <グループビンゴのまま>	・人数分のジャガイモを準備し、持ち込んでおく。(ゲストTという設定) ・順番に好きなジャガイモを取らせる。 ・品種、大きさ、色、形、産地等様々なものを準備する。 ・自己紹介をWSに記入させる。 ・似顔絵、ニックN、出身地、家族等。 ・グループ内で、ジャガイモになったつもり
	10	・ジャガイモになって自己紹介をする。 WS記入(4M)	

(指導言 一部)

1/4 東中授業「私のジャガイモ」指導言

14:30 授業を始めて。→コンセンサスト目標を。→時短

↳(最初から各グループにさせておく)→時短

前時間のブレインストーミングの残り一題が済んだので、今日はこの3問目に挑戦してみよう。

課題の入った封筒と記録用紙を机の上に置いておく。→時短

PPT準備。発表者を決めさせておく。

これは封筒を開けて下す。課題3がなぜ勉強できるのか

14:31 時間は3分間だけ。始めて下す。

14:34 やめて下す。発表者は起立して下す。→自分の声

1分間から順に発表しよう。→4分

14:38 いじりな意見は発言で出さず。どの意見も正解だと思おう。私もその答えを認めることを見よう。→PPT 斎藤喜博君の可能性

今も学ぶ時です。そして生きることが身に付く時です。

14:41 しっかり学びましょう。(14:41までに終了)



5 アンケート結果 (一部)

集団を本気にさせるといったことに関して言えば、1月14日に山内先生がされた「私のジャガイモ」の授業は子どもを本気にさせた授業だと感じた。前時からスペシャルゲストを招くと期待させ、院生に運ばせる演出で、ただのジャガイモを特別感のあるジャガイモに昇華させた。もちろん、授業者が足を使いスーパーを何軒も回って、様々な種類や産地のジャガイモを用意したという工夫も子ども達に良い影響を与えたと思う。だからこそ、真剣にジャガイモに向き合い名前や家族構成などを考えられた。その後、ジャガイモと別れ、再び出会う場面もあったが、いい加減な気持ちでジャガイモと接していないから、個性を見つけ無事再会できたのだと思う。また、授業の中盤には説話もあったが、子ども達は、説教臭く感じるのではなく山内先生の話に本気で耳を傾けて、本気で向き合うことができていた。

山内先生の学級活動の授業を何度も参観させていただき、先生に講義で教えていただいたことが模範的な授業実践からも理解することができた。毎時間、指導言作成による指示や発問の精選、道徳的な自尊感情を育てるアクノリッジメントの働きかけ、ブレインストーミングや様々なグループワークの内容、子どもが進んで考えを伝え合えるような雰囲気づくり、徹底できる学習のルールづくり、リアリティーのある小道具の活用、思いを込めた語りなど1時間の授業の中で多くの手立てや工夫があり、ねらいに迫る授業実践で大変参考になった。私もこれまでの経験に加えてプロであるという自覚と自己変革意識をより強く持って、熱意・専門性・人間性を高める努力をするとともに、先生のような子どもたちの心に響く授業ができるようにもっと「授業力」を磨いていかなければならないと強く感じている。

山内先生ほどのキャリアのある先生自らが惜しげもなく我々に授業実践を披露していただけたこともかけがえのない財産となりました。こだわり抜いた授業のネタやプレゼン等の事前準備はもちろんのこと、教師の発言の無駄を削ぎ落とすために、あらかじめ「指導言」を準備しておくという徹底ぶりには驚嘆いたしました。授業をより良いものにしていくためにとことん追究していくと、その境地に達するのだと認識しました。また、山内先生の授業を参観させていただいたときに感じた一番の印象は、教室内に「子どもたちの生き生きとした表情」があるということです。先生も生徒も笑顔で授業に臨んでおり、そこにはワクワク、ウキウキというような感覚があるように感じました。

はないかと考える。より実践的な指導力の育成を目指して、受講生に対してどのような授業を提供できるか、様々な指導方法を検討し、試行錯誤していきたい。



6 今後の課題

今回の授業は、松山市教育委員会主催の「松山市教育研究センターフェスタ」の公開授業の一端として、松山市教育委員会、松山市立東中学校の全面的な協力を得て実施できた。大学教員がこれまでの経験や理論を生かし、実際に生徒を対象にして授業を実践し、受講生はそれを参観するという、ある意味では理想的な授業が構築できた。受講生の中には現職教員もおり、アンケートにあるように、授業実践の参観から学ぶことも多かったように思われる。

しかし、このような授業を毎年提供できるかどうか課題が残る。大学側だけでは構築できない授業であり、関係機関の協力が必須である。しかし、教職大学院が提供する授業としては今後、このような形態も検討する余地があるので